

## 留学報告書 ～韓国留学生活まとめ～

カトリック関東大学  
国際文化学部生（中期）

2018年秋に過ごした、約4ヶ月間のカトリック関東大学校での大学生活、韓国留学生活の詳細についてまとめるにあたり、まず印象に残っている出来事いくつかを順を追って綴っていく。

8月27日に入国し空港に到着後は、留学前から事前にSMSを通し、必要事項などを知らせて頂くなど、大変お世話になっていたスヨン先生が迎えに来てくださっており、初対面を果たした。その場にはスヨン先生のみならず、留学生団体ピックアップの為に既存中国人留学生の方々も、通訳を兼ねてバスで迎えに来てくださっていた。

というのも、その場に居た私以外の新規留学生は全員中国人だったのだ。全員もともと面識があるのだろうかと思うくらい他の学生は群れになり母国語で話していた中、その場に唯一の日本人だった私に話しかけてくれる者もいた。ただ、韓国語は分からないからと英語で話された事で、せっかく韓国語を学ぶ為に勉強をし、お金を貯めてやっとの思いで来た私にとっては入国早々に初っ端から不安が募った。留学をする前にある程度の語学力を備えているべきだと考えていたのだが、皆が皆そういう考えを持ち合わせている訳では無いと分かった。

空港から大学へ向かうバスの中でもやはり皆中国語で会話を続けていて居場所が無く、後にも先にも無い唯一のホームシック状態になり、大学でも授業中でも宿舎でもこんな状況が続いたらどうしようか...ここに来て正解だったのかという考えが頭の中をグルグル巡り、泣きそうになっていた。だがしかしバス乗車前からこうなる事は予測していたのと、韓国の交通の荒さを考慮した上で事故が起きた場合に誰よりも早く脱出できるようにと、ドアのすぐ側で1人ひっそり座っていた為、上で挙げたスヨン先生がすぐ斜め前の席だった事もあり「マオ、退屈ならこっちで話そう」と声をかけてくださった。韓国に来ていながらもひたすら中国語が聞こえてくる中、ようやくまともな韓国語を聞くことが出来た安心感でまたもや泣きそうになったのをよく覚えている。

スヨン先生との会話では「日本と比べてどう？」など定番の質問から始まり、「マオは既に勉強してきたんだから、ここで今から留学したら帰国する頃にはもっと伸びるね。検定は取ったことある？一番上の級があれば学費はほぼ免除になるはずだから、ウチの大学院に来てみたら？それでウチの留学生担当の日本人通訳として居てよ」などと初日にも関わらず数年先の提案までして頂いた事で、留学の先にある未来にも期待する事ができ、その先生のおかげで随分と心が楽になった。

留学生活が始まって数日後から、外国人登録証の発行依頼と口座開設の為に先生が書類の

記入を手伝って下さったり、留学生に多いトラブル対策として警察の方が来て説明を受ける場が設けられたりと、ありとあらゆる面で面倒を見てくださった。また、授業以外の面でもカトリック関東大学は留学生向けの行事ごとが多く、シティツアーや北韓国境見学、音楽番組の特番観覧など本当に私達留学生の生活を豊かにしようとしてくださっているのが伝わり、配慮を感じる事ができた。

そして何よりも留学生想いの大学だと強く感じたのが、グローバルバディシステムだった。これは、韓国人の現地大学生の中で日本語を勉強している生徒は日本人留学生と、中国語を勉強している人は中国人留学生とマッチングさせて貰えるシステムで、互いに交流を通し文化や言語を教え合う事を目的としたものだ。初めての顔合わせの場だけ先生によって用意され、その後は個々で連絡を取り合いながら振興を深めていく。今回の交換留学は正規留学では無く語学留学に値することから、韓国語を学ぶ他の外国人との交流は多いものの、ネイティブスピーカーである現地大学生と知り合い、仲良くなる可能性は極めて低いのでは無いかと思っていたのだが、カトリック関東大学ではこの制度があったおかげで日常生活充実させる上でかなり助けになった。

実際に私は今もなお連絡を取り合う仲であるヘリムとこのグローバルバディシステムを通して知り合った。また、運良くヘリムは日本語サークルに所属している生徒だった為、サークルの他のメンバーにも紹介して貰えた事で、自分以外は皆現地学生の中、大人数で集まったりなどリアルな韓国の大学生の様な時間を過ごす事ができたのは本当に有り難かった。また、授業で覚えた文法などを机に向かって復習するだけでなく、実際にすぐ使ってみる事が可能だった点、自然な話し言葉や流行語、略語などを耳にする事ができた点もこの環境のおかげだと思う。

そして最も重要な授業についてだが、月例報告でも述べたようにまず一番最初に学力調査の為のテストを受けてから初級、中級、高級へとクラス分けをされた。事前に勉強と研究を重ねてから留学に行った為、大まかな基礎は踏まえていた事から高級クラス配属となった。

授業は主にどのクラスも韓国語能力試験での級取得を目的とした対策授業といった感じだが、高級クラスではやはり日常会話より上のレベルの取得が求められた。というのも、私が居たような大学付属の語学堂生徒の1番の目的は、語学堂を卒業し、現地大学生と同じ大学に入り正規留学をする事である為、高級クラスともなれば易しい初歩的な学びでは無く、現地大学生と同じ講義を受けて教授の話に着いていけるだけの力を養う場に違いないからである。そしてどの大学を受験するにしてもまず必要になるのが先に述べた韓国語能力試験の級取得なのだが、これはまだ正規留学を視野に入れていなかった私にとっても目標としていたところであった為、全体的な授業内容にもとても満足している。

ただ私だけ他の生徒と違い、韓国語に関しては独学での学びの経験しか無かった事から、細かな基礎が抜けていたりなど自分でも不安に感じる部分が非常に多かった為とても心配だったのだが、そこに関してもきちんと覚え直し、細かな部分を叩き込む事に成功した。

この様に環境、人間関係、学び全ての場面においてカトリック関東大学での生活は私にとって最高の経験となり、将来選択をするにあたってこれからも多くの良い影響があることだろう。この留学を通して出会った全ての人に感謝したい。